

目指す学校像	主体的に生きる人間の育成 (1) 学校・家庭・地域が連携し、きれいで誰もが安心・安全に過ごせる学校 (2) 誰一人取り残すことなく、個に応じた教育を実践する学校 (3) 生徒が変化の激しい社会を生き抜くために必要な力を身につけ、社会の一員として行動できる人材を育成する学校 (4) 教職員が力を結集し、「チーム土呂」として前進する学校
--------	---

重点目標	1 「主体的・対話的で深い学び」による学力向上 2 誰もが安全で安心して生活できる学校作り 3 コミュニティ・スクールの機能をいかし、地域とともに歩む学校作りの推進 4 授業公開、研修とICT活用を通じた教師力アップ
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価						学校運営協議会による評価	
年度目標						実施日令和7年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【学力向上に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・数学ともに全国・市平均と比較して上回り概ね良好である。 ○日々の授業態度については良好で学習にしっかりと取り組んでいる生徒が多い。 (課題) ○基礎学力定着のための学習において、ICT教材を活用したり、テスト前の質問会などに積極的に参加したりしていない傾向がある。 ○学習の流れや学習の仕方について理解し、自分なりに計画を立てながら授業や家庭学習に取り組もうとする意欲が高くない。	・「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けた情報端末の活用及び授業改善 ・学びの探究化を目指した「STEMS教育」「SDGs」の段階的な取組の推進	①タブレット端末を効果的に活用した魅力ある授業の実践と公開。 ②タブレット端末を活用した公開授業を全教員が年1回以上実施する。(指導訪問、年次研修等の機会) ③ICTを効果的に活用するための校内研修を実施し、研究成果を共有する。	①タブレット端末等を活用して、効果的な授業を実践し、自らの学習状況を把握し、目標を立て達成に向けて努力できるようになったか。 ②課題を解決する方法を身に付け、挑戦する態度を育てることができたか。	方策①、②について、7月11日の指導訪問、11月20日「初任研メンターメンティ研究授業」、初任者研修他全教員が1回～5回のタブレット端末を活用した授業公開を実践している。方策②の校内研修は、4月4日、8月22日、8月28日、10月7日、11月25日実施した。8月22日は「食育」について共通理解を深め、研究を推進した。	A	・授業公開や校内研修を通して計画的に授業改善を進めていく。 ・タブレット端末の更新を踏まえて、生徒が自主的に端末を利用して学習が進められるように指導をする。 ・学習態度や学習環境を維持しつつ、ICTの効果的な活用を進め、個別最適な学びの推進を実施していく。
2	【安心・安全に関する取組】 (現状) ○前年度まで教室に入れなかった生徒が、新学期より頑張って教室復帰している生徒が複数いる。 ○教育相談部会を中心として、不登校傾向の生徒の相談・指導を組織的継続的に行うことができる。 ○各担当による安全点検の確実な実施と管理職、業務主査による点検を実施し、危険個所の把握と対応はできている。 (課題) ○自己肯定感の低い生徒への支援とその体制づくりの強化 ○災害等発生時の学校全体の対応力の強化 ○登下校の交通安全指導の継続	・生徒一人ひとりの細やかな寄り添いができる教職員の育成 ・安全な学校生活に主体的に取り組む生徒の育成に向けた教育活動の充実	①いじめの未然防止、早期発見、積極的な初期対応を適切に行う。 ②教育相談の共通理解のもと、不登校生徒と学校との関りを作り、個別最適な支援を実施する。新規不登校生徒を出さないための方策を研究する。 ③土呂中学校いじめ防止基本方針に基づいた指導を徹底する。	①日常生活の中で積極的に「あいさつ」を実施して意図的に会話をし、生徒の状態や理解を深めることができたか。 ②おはようメーターの活用や個別面談を実施して、生徒の支援を行うことができたか。	方策①、②については、6月に「いじめ防止強化月間」の取組、「いじめ防止ブロック会議」や「心と生活のアンケート」、「おはようメーターの活用」、「教育相談週間」での二者面談等を通じて、いじめの未然防止に努めた。また、生徒会による「朝のあいさつ運動」を今年も実施して「元氣」で「あいさつ」の声が飛びかう学校となっている。生徒アンケート「元氣なあいさつをしている」R5年度85%、R6年度86.9%が肯定的だった。	A	・保護者による学校評価において、「学校はいじめのない学校づくりに努めている」の項目、R6年度肯定的な評価が84.2%だった。(R5年度83%)引き続き「あいさつ運動」や面談等を実施して、未然に防げるように努力をしていく。
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 (現状) ○コロナ禍での「学校、家庭、地域が一緒にできる取組」について、活動が少なくなり、地域とともに生徒が活動する場面が減少している。 ○新型コロナウイルスの影響が少なくなり、授業参観や学校行事の公開が進められている。 (課題) ○地域人材の活用、地域資源の活用が少ない傾向にある。 ○地域催事がコロナ禍前の状態に戻ってきたが、生徒の参加が少ない傾向になっている。 ○教職員、生徒の地域催事への参加や地域貢献の方法についてできるだけ負担を少なくして実施していく。	・地域との連携を図り生徒の地域行事への参加を通じた地域貢献の推進 ・授業参観や学級懇談会、学校行事や部活動等の公開を通じた学校公開の推進	①地域のボランティア活動等を積極的に紹介し、生徒が自らの考えで地域の一員として活躍できる生徒の育成をする。 ②生徒が参加・活動する具体的な方策を定め、地域と協働した取組を行う。	①生徒の活動後にアンケートを実施し、地域の活動に協力することについての項目で肯定的な回答が優位となる。 ②地域の関係者にアンケートを実施し、地域への活動参加についての項目で肯定的な回答が優位となる。	方策①については、前年度より参加できるボランティア数を増加させたが、肯定的な評価R5年度54.7%、R6年度56.5%と向上はしたが、認知度が低いと感じていた。 方策②については、「中学生が地域への活動参加」について、依頼者から肯定的な評価90%だった。	B	・令和6年度は自治会や公民館の参加もあり体験する生徒が倍増したが、周知が伴わなかったためか、ボランティアの知名度が低かった。次年度は周知方法の改善、参加した生徒の成果発表会などを実施して周知を図る。
4	【教職員の資質向上に関する取組】 (現状) ○教育相談のための研修会や市内でも各教科の中心となる先生が授業力向上について研修している。 ○学校研究課題に組織的に取り組んでいる。 (課題) ○質の高い学びや深い学びに関する研修や取組が十分ではない。 ○保護者や地域はわかりやすい授業を望んでいる。	・教育相談や授業研究、教材研究、授業準備を行うとともに年間の校内研修を通じた資質の向上の実現	①校内研修計画に従い、教育相談や研究主題に対して、授業でどのような取組をしたか自分の実践や他教員の授業の参観を受け、教科会で共有し良い手立てやワークシート、評価や成績などについて情報交換を行い資質の向上に取り組む。 ②「学びの指標」等を活用した授業改善に取り組む。	①研修会を通して「教える」から「学ぶ」への授業改善の意識を持ち、「ICTを効果的に活用した魅力ある授業」の実現を目指し日常的にICTを活用する状況になったか。 ②全ての教員が「個別最適な学び」や「協働的な学び」など「質の高い学び」や「深い学び」を実践することができたか。	方策①、②については、学校課題として、授業改善の意識を持ち、ICTの効果的な活用を進めた結果、先生方の学校評価「生徒が教科の見方・考え方を働かせて学習に取り組む指導」を意識したかの項目において、肯定的な評価R5年度86.4%、R6年度88.4%となった。	A	・前年度の研修で学んだルーブリック評価の活用や本年度研修したスクレの利用など実践していく。 ・「食育」の研修を進め、生徒が食育を通して主体的に生きる人間に成長できるように授業改善や指導法の工夫に努める。 ・教育環境の整備に努め、計画的な研修会の実施務める。

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

- ・学習状況は良いので継続して行ってほしい。
- ・学んだことを将来に役立てるの生徒評価が89%はボランティアにも結び付いて良い。
- ・道徳の授業評価が90.9%となっており、ほとんどの生徒がまじめに取り組んでいた。
- ・授業のねらいなどを提示したほうがわかりやすいと思う。
- ・授業のフォーマットを作成してみてもどうか。
- ・ICTとプリントの有効的な活用ができていた。

・先生方がよく対応していて、生徒の話を良く聞いている。

・生徒は優しい生徒であるが、体の不自由な方がいたら気づくことが大切である。

・いい学校と言われているときに油断になるので、気を付けて欲しい。

・良い生徒というのが受け継がれている点がうれしかった。

・防災訓練など地域と連携した取り組みが出来たら良いと考える。(生徒の意見も参考にしたい。)

・素直に育っている。お礼も言われていてよかった。

・令和6年度は自治会や公民館の参加もあり体験する生徒が倍増したが、周知が伴わなかったためか、ボランティアの知名度が低かった。次年度は周知方法の改善、参加した生徒の成果発表会などを実施して周知を図る。

・各学年や担任からもたよりを発行していて、情報発信を継続して行っているが、スマホ等による情報閲覧が想定されるので対応できるものを検討していく。

・学校公開の周知や行事の周知を自治会や公民館にも依頼していく。

・全教員が授業公開をされてよかった。

・先生方の授業改善の意識が高いことが伺えた。

・教員を希望する学生が減っている。これからは授業が勝負になってくるので、授業で喜ばせていくことが大事。